3
vol.229
広報　縄文村だより vol.229（３月号）
Jomon Times
令和７年３月１日
●編集・発行●
奥松島縄文村歴史資料館
東松島市宮戸字里81-18
TEL 88-3927 FAX 88-3928

東松島市文化財講演会
「道嶋氏の台頭と陸奥国」

１月19日(日)、赤井市民センターで東松島市文化財講演会「道嶋氏の台頭と陸奥国」を開催し、多賀城跡調査研究所の吉野武所長にご登壇いただきました。

道嶋氏はいかにして勢力を拡大し、歴史から消えていったのか？

赤井地区にある赤井官衙遺跡は、古代の役所跡「牡鹿郡家」または対蝦夷対策のために設置された「牡鹿柵」と推定されており、その造営と維持にあったのが「道嶋氏」であることが当時の歴史書から明らかになっています。

道嶋氏は、もとは現在の千葉県南東部に存在した上総国からの移民である丸子氏の一族で、改氏姓を重ねながら身分を上昇させていきました。その中でも特に活躍したとされるのが「道嶋嶋足」です。嶋足は8世紀中頃に都へ出仕し、764 年に起こった「藤原仲麻呂の乱」で大殊勝をあげたことで陸奥国第一の郡領氏族の地位・権威を確固たるものとしました。しかしながら、770 年に城柵侵攻を広言した蝦夷との交渉の記録を最後に歴史書から名前が消えることになります。

講師の吉野所長

歴史書から消えた、その要因は？

吉野所長は、その要因について擁護者であった称徳天皇（孝謙上皇）の死去や、蝦夷の離反という事態の収拾、説得に失敗した可能性を指摘。**「一族の繁栄は律令体制での出世と人脈が契機となったものの、故に安定して長続きするものではなかった。実態は、国司の下で国に仕える牡鹿郡大領（郡司）としての姿だ」**と語りました。

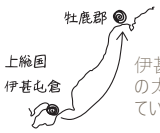
会場には、東松島市内をはじめ県内外から約120名が参加。メモを取りながら熱心に講演に聞き入っていました。

「多賀城国府の頃の人間ドラマに興味を覚えました。」「仲麻呂の乱での功労者は陸奥国司以下の人脈でつながるという視点は初めて聞く話で非常に面白かった。」と、1300年前に思いを馳せる感想が多数寄せられました。

古代史ドラマに夢中に！！

わかりやすく解説！

牡鹿郡を治めた豪族
丸子氏と道嶋氏のおはなし



伊甚屯倉は房総半島の太平洋側に位置していました。

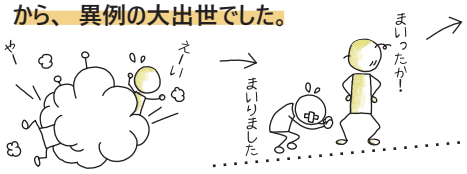
1 古代牡鹿郡を治めた道嶋氏は、上総国伊甚屯倉（屯倉＝朝廷の直轄地、現在の千葉県南東部）から移住してきた丸子氏の子孫と考えられています。

2 丸子氏は現地の有力な農民層であったとみられます。矢本横穴の造営が大化の改新のころには始まっているため、丸子氏はこの頃には移住してきたと考えられます。

3 一族のひとり「**丸子嶋足**」は天平19(747) 年頃、奈良の都に「授刀舎人」という役人として出仕します。
そして天平勝宝 5(753) 年に嶋足は「牡鹿連」の姓を賜りました。

天平宝字8(764) の「**藤原仲麻呂の乱**」のときに、上皇方につき武勲を立てたことにより、それまでの従七位上から従四位下に昇進し、貴族の仲間入りを果たしました。
地方豪族が貴族になることはほとんどありませんでしたから、異例の大出世でした。

4



5 「道嶋宿禰」を賜った嶋足は、神護景雲元(767) 年には**陸奥国大国造**となり、一族とともに陸奥国全般に権力を持つようになりました。
その後の道嶋一族も伊治城の造営や蝦夷征伐の際に活躍しました。

2025年度
イベント参加申込み、スタートします！

３月中旬より 2025 年度縄文村イベントの一般予約を開始します。
詳細は、縄文村ホームページ（右記 QR）、縄文村および市内施設で配布しているカレンダーをご覧ください。

ホームページ